

わたりだ

2026(令和8)年6月30日

渡田小学校教育目標

やる気いっぱい

笑顔いっぱい

元気いっぱい

川崎市立渡田小学校

私たちのまち 川崎、私たちの学校 渡田

学校長 仙田 清孝

毎朝、正門で登校してくる子供たちを迎えていると、向かいにあるふれあい公園のアジサイが日に日に色を濃くし、花が大きく、数を増やしてくのを感じます。今年は、しとしと雨が降る、梅雨らしい6月となりました。

そんな雨の中、6月18日には3年生と一緒に「市内めぐり」に出かけてきました。3年生の社会科やキャリア在り方生き方教育では、私たちのまち・川崎への興味や関心を深め、自分の育つ郷土への愛着を育むことを大切な目標としています。今回は学校のある渡田を飛び出し、川崎区から川崎市全体へと足を延ばし、バスの車窓からまちの様子をじっくりと観察してきました。子供たちは、車窓から見える住宅地や駅周辺の賑わい、坂道の多さや土地の高さの違いなどから、たくさんの発見をしていました。その一部をご紹介します。

- 川崎区は産業道路があり、大きなトラックがいっぱい通っている。大きな工場がある。幸区には大きなマンションのかたまりがある。なぜ大きなマンションがあるの？
- 中原区には新幹線が通っている。家が多い。駅の周りには人が多く、店も多い。宮前区には尻手黒川道路があり、道路が広い。多摩区には畑があり、梨を育てている。

南北に長く広がる川崎市は、市内7区それぞれに異なる魅力があり、それぞれが川崎のよさでもあります。今後は各区の様子を比べることで、自分たちが暮らす「渡田小学区」のよさにも改めて気づいていけるよう学習を進めていきます。

さて、私たちの住む川崎市ですが、102年前の1924年(大正13年)の7月1日、川崎町、大師町、御幸村が合併し、人口約5万人で誕生しました。その後、多摩川沿いの町村を次々と編入しながら、1972年に政令指定都市となり川崎、幸、中原、高津、多摩の5区が誕生しました。1973年には人口が100万人を突破しました。さらに1982年には宮前、麻生の2区が誕生し、現在の7区制となり、2017年には人口が150万人を突破。ミュージアムやラゾーナ川崎、藤子・F・不二雄ミュージアムなどがある活気あふれる大都市へと進化し続けています。

市が誕生した7月1日は、「市制記念日」です。この機会に、川崎市の歴史をお子さんと一緒にふり返ってみてはいかがでしょうか。「今あるこの場所は、昔は何だったのかな?」「今と昔で何が変わったのかな?」など、親子で楽しい発見があるかもしれません。渡田小学校も市誕生から遅れること4年の1928年(昭和3年)に開校しました。再来年に迎える創立100周年という大きな節目に向けて、学校、子供たち、地域が一体となり、協力し合ってお祝いをしていきたいと考えています。これから始まる様々な取り組みへのご理解とご協力をどうぞお願いいたします。

6月19日、今年度の第1回学校運営協議会を開催しました。本校は、地域住民の皆様や保護者の皆様に学校運営に加わっていただく「コミュニティ・スクール」としての歩みを進めています。教職員だけでなく、地域の皆様とともに子供たちを育み、「地域とともにある学校」の実現に向けて取り組んでいます。この学校運営協議会は、地域住民代表として姥ヶ森町内会、田島町町内会、東鋼親和会、小田栄2丁目自治会の各会長様をはじめ、臨港中学校区地域教育会議事務局長様、民生委員や主任児童員の皆様、保護者代表としてPTA会長、副会長の皆様を委員とした大変心強いメンバーで構成されています。

今回の会議では、今年度の学校経営方針や重点目標について学校側からご説明し、承認をいただきました。また、再来年に迎える創立100周年に向けたこれからの方向性についても確認を行いました。休み時間には、運営委員会の子供たちが会議に参加し、今年度の児童会スローガン「**みんなが主役～笑顔キラキラ、元気モリモリ、やる気たくさん～**」を紹介し、自分たちの取り組みや地域の好きなところなどを堂々と発表してくれました。委員の方からは、「公園の使い方、交通マナーなど地域をよりよくするために子供たちと一緒に考えていきたい」というご意見をいただきました。

